

施策番号 4-1-1	施策名 学校教育の充実	基本目標	個性的で心豊かな人と文化を育むまちづくり			
		政策名	豊かな心を育む人づくりの推進			
	主管課	学校教育課	課長名	松浦 智幸	内線	511
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心身豊かな人づくりを目指します。		児童生徒	確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、「生きる力」を身に付ける				児童生徒が社会に出たときに自立できる
成果指標	説明	単位	年度(策定時)	28年度	29年度	30年度	
① 「学校生活や授業が楽しい」と思う児童生徒の割合	学校評価	%	89.3	88.5	88.5	90.0	
② 「授業が子どもにとって楽しく分かるように進められている」と思う保護者の割合	学校評価	%	83.6	85.3	85.4	85.0	
③ 毎日朝食を摂っている児童生徒の割合	生活習慣・学習環境等状況調査	%	88.5	88.4	85.7	90.0	
成果指標設定の考え方	①及び②については、各学校の学校評価項目から、類似又は関連する評価項目を参考にするとともに、前期実施計画の実績なども考慮し目標値を設定した。 ③については、前期実施計画では食育の推進を成果指標としていたが、児童生徒の健やかな体の育成からも本施策の成果指標とし、①及び②同様、前期実施計画の実績なども考慮し目標値を設定した。						

2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費(千円)	934,605	1,238,297
人工数(業務量)	6.1732	6.0677

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成29年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	「毎日朝食を摂っている児童生徒の割合」は前年度を下回ったが、他の2項目は前年同様及び上回ったため、総体としては「成果は変わらなかった」とした。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①については、各学校の授業改善の継続した取組により目標達成を目指す。 ②は目標値を達成している。 ③については、栄養教諭による食育指導の継続実施や、学校給食の試食などを通して保護者に対して食育の大切さの理解を深めてもらうことにより、目標達成は可能と考える。
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	(小学校・中学校)施設維持管理事業 児童生徒支援事業 (小学校・中学校)教材・教具整備事業 学校給食管理運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・学校施設などについては、年次計画に基づき工事・備品購入を行うとともに緊急修繕等の実施により、安心・安全な教育環境の整備に努めた。 ・特別な配慮や支援を必要とする児童生徒に対しては、各学校の実態を踏まえた上で教育活動指導助手や学校支援員を配置し、個に応じた学習支援を行うとともに、小学校3・4年生の35人以下学級編制のため教育活動指導助手を配置するとともに、平成30年度からは小学校5・6年生へも拡大し実施することとした。 ・芽室産食材を活用した「めむろまるごと給食」実施、食物アレルギー等に対する代替食の提供、栄養教諭による全校全学級の食育指導を実施した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設などの老朽化対策や多様なニーズへの対応と、個別施設毎の長寿命化計画の策定。 ・社会に開かれた教育課程の実現を重視した新学習指導要領(小学校での英語教科化やプログラミング教育など)への対応とともに、地域とともにある学校づくりの推進。 ・町の発達支援システムと連携した特別なニーズに対応した教育の推進のための教育活動指導助手や学校支援員の充実。 ・学校給食(食物アレルギー対応を含む)の提供と食育指導の継続に向けた体制などの継続充実。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とともにある学校づくりとしてのコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進。 ・大学等奨学金貸付制度や就学援助など教育の機会均等などの確保に向けた施策の充実。 ⇒平成29年度から、連帯保証人の町内在住要件の廃止、通年貸付の実施、貸付者が卒業後芽室町に戻り、一定期間居住等をした場合の一部償還免除制度の創設 ⇒平成29年度から、就学援助の新入学用品費に係る入学前支給を実施

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領実施など教育環境の整備に向けた対応 ⇒外国語活動・外国語科の推進に向けた英語指導助手の配置や、プログラミング教育等のためのICT教育環境の整備 ⇒少人数学級の拡大や発達支援システムと連携した特別支援教育の充実に向けた人員の増員 ○学校施設などの環境整備 ⇒長寿命化基本とした老朽化改修と多様なニーズに対応した施設整備 ⇒個別施設毎の長寿命化計画の策定 ○学校給食の提供や食育指導に向けた体制の充実 ⇒児童生徒数の減少に伴う道教委配置の栄養教諭の減員に伴う対策と体制の充実

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	教育活動指導助手の配置などにより、学校教育環境の充実を図っており、計画策定時と比較して前進していると言える。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	現在の取組や、今後の新たな取組について、適宜検証を行い、進めていってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した 				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価と同じく前進していると評価する	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日朝食を摂っている児童生徒の割合について成果指標向上の取り組みが必要である。 ●子育て環境に課題のある家庭について把握することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した 				